



例題と解説

例題 1

リンゴとミカンがあり、ミカンの個数はリンゴの2倍です。何人かの子どもにリンゴを5個ずつ、ミカンを8個ずつ分けたところ、リンゴはちょうど分けることができ、ミカンは14個あまりました。

子どもの人数とリンゴの個数を求めなさい。

答え 子ども：7人，リンゴ：35個

[例題 1 の解説]

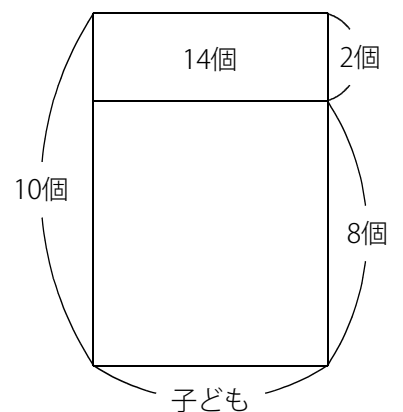
「ミカンはリンゴの2倍の個数で、リンゴは5個ずつ分けるとちょうど分けることができた」ことに着目します。

ミカンはリンゴの2倍だったので、もしミカンを5個の2倍の10個ずつ分けていればちょうど分けることができたはずですが、なのに8個ずつ分けたので14個あまりました。

これを面積図に表すと右図のようになります。

よって (子どもの人数) $=14 \div 2 = 7$ (人)

(リンゴの個数) $=5 \times 7 = 35$ (個)





例題と解説

例題 2

リンゴを何人かの子どもに分けます。12個ずつ分けると18個あまります。もし、3人に20個ずつ分けて、のこりの子どもに13個ずつ分けようとするすると24個足りません。子どもの人数とリンゴの数を求めなさい。

答え 子ども：21人，リンゴ：270個

[例題 2 の解説]

「3人に20個ずつ分けて、のこりの子どもに13個ずつ分けようとするすると24個足りません」に着目します。

これを「子ども全員に13個ずつ分けたら○個あまります（○個足りません）」となるように問題文を読みかえます。

3人に20個ずつなので、この3人がもらったリンゴの個数は $20 \times 3 = 60$ (個)

この3人も13個ずつだったならリンゴは $13 \times 3 = 39$ (個) なので $60 - 39 = 21$ (個) あまります。

のこりの子どもに13個ずつ分けようとしたところ24個足らなくなっているので、あわせて考えると、

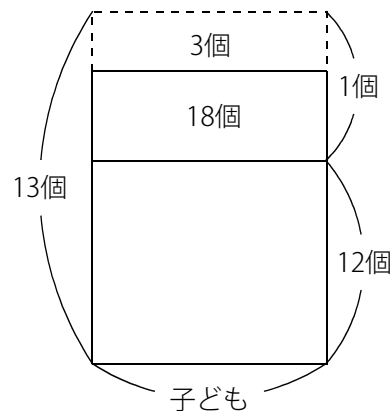
子ども全員に13個ずつ分けようとしたなら $24 - 21 = 3$ (個) 足らなくなっていたことがわかります。

つまり、「12個ずつ分けると18個あまり、13個ずつ分けようとするすると3個足りない」となります。

面積図は右図のようになります。

よって (子どもの人数) = $21 \div 1 = 21$ (人)

(リンゴの数) = $12 \times 21 + 18 = 270$ (個)



※ 面積図を書かずに1人の場合だと1個の差で、21個は21倍なので子どもは21人だと考えてもかまいません。



例題と解説

例題3

リンゴを何人かの子どもに分けます。6個ずつ分けると2個あまります。もし、3人に8個ずつ分けて、2人に7個ずつ分けて、のこりの子どもに5個ずつ分けると14個あまります。子どもの人数とリンゴの数を求めなさい。

答え 子ども：25人，リンゴ：152個

[例題3の解説]

「3人に8個ずつ分けて、2人に7個ずつ分けて、のこりの子どもに5個ずつ分けると14個あまります」に着目します。これを「子ども全員に5個ずつ分けたら○個あまります」となるように問題文を読みかえます。

「3人に8個ずつ分けて、2人に7個ずつ分けて」と書いてあるので5人に $8 \times 3 + 7 \times 2 = 38$ (個) を分けています。この5人にも5個ずつ分けたとすると、 $5 \times 5 = 25$ (個) なので $38 - 25 = 13$ (個) あまります。

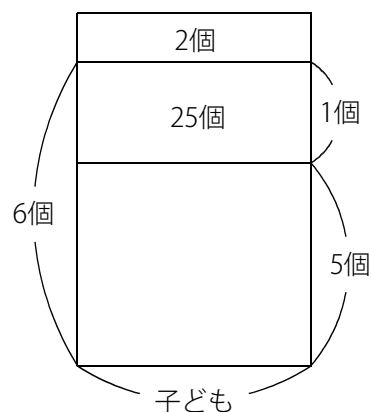
のこりの子どもに5個ずつ分けると14個あまっているので、あわせて考えると、子ども全員に5個ずつ分けると $14 + 13 = 27$ (個) あまることがわかります。

つまり、「6個ずつ分けると2個あまり、5個ずつ分けると27個あまる」となります。

面積図は右図のようになります。

よって (子どもの人数) = $25 \div 1 = 25$ (人)

(リンゴの数) = $6 \times 25 + 2 = 152$ (個)



※ 面積図を書かずに1人の場合だと1個の差で、25個は25倍なので子どもは25人だと考えてもかまいません。



ポイントまとめ

- ・複雑な過不足算はいつもの「○個ずつ分けると□個あまり、●個ずつ分けようとすると■個足りない（あまる）」という形に直して考えましょう。